

福島県における主要浮魚類の水揚げ状況(カツオ、サンマ)

福島県水産試験場 海洋漁業部

1 部門名

水産業－資源管理－カツオ、サンマ

2 担当者

池川正人

3 要旨

原発事故の影響により福島県の沿岸漁業は操業自粛を余儀なくされているが、浮魚類を対象とする大中型まき網漁業、さんま棒受網漁業では漁獲物の安全性が確認され、水揚げが再開されている。このうちマイワシ、サバ類については震災前と同様ないしそれを上回る水揚げで推移しているが、カツオ、サンマについては回復には至っていない。この状況を明らかにするため、カツオ、サンマの水揚げ状況について、震災前10か年平均水揚げ状況(以下、震災前)を基準に経過を取りまとめた。

- (1) 福島県におけるカツオの水揚げ量は2011年以降、震災前の0.2～7.8%で推移し、2017年は2012年以降の最低値となった。同様に水揚げ金額は0.1～6.7%で推移した(図1)。
- (2) 福島県に水揚げされたカツオの尾叉長組成は、2013年は50cm台の、2016年は40cm台の割合が高かった以外、概ね50cm付近にモードを持つ単峰型であった。
- (3) 全国におけるカツオの水揚げ量は震災前の58.3～92.7%で推移しており(図1)、尾叉長も大きな変化はないことから、福島県における水揚げ量減少の要因は、資源的なもののみではないことが示唆された。
- (4) 福島県におけるサンマの水揚げ量は震災前の19.6～53.1%、水揚げ金額は48.4～84.3%で推移していた(図2)。
- (5) 全国におけるサンマの水揚げ量は震災前の29.0～88.2%で推移していた(図2)。2017年においては全国、福島県とも震災前の水準の3割程度であり、福島県における水揚げ量減少は資源的な要因であることが示唆された。

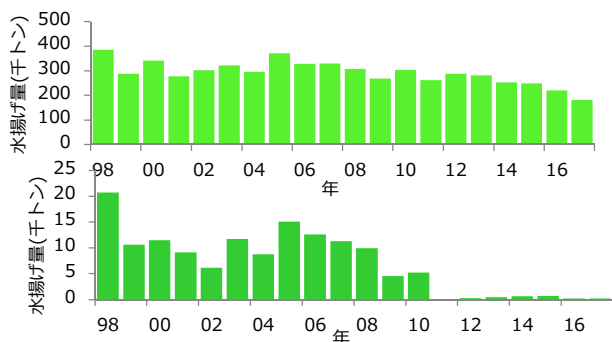


図1 カツオ水揚げ量推移(上:全国 下:福島県)

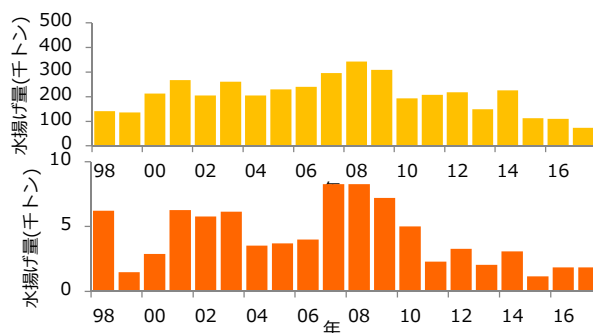


図2 サンマ水揚げ量推移(上:全国 下:福島県)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成24年度～29年度
- (2) 研究課題名 浮魚類の持続的利用に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

5 主な参考文献・資料

- (1) 農林水産省、漁業・養殖業生産統計
- (2) 漁業情報サービスセンター、おさかなひろば、サンマ漁海況情報
- (3) 福島県水産課、福島県海面漁業漁獲高統計